

## 令和6年度第2回町政報告会 質疑応答

※内容を一部要約しています。

Q. 小中一貫校について、昨年の6月の町政報告会で質問した時、開校年度が令和10年度から令和12年度へ延期と聞いたので、これ以上の延期はないよね、と釘を刺した質問をした覚えがある。先日の記者発表では、以前の30年度開校が困難だとの新聞記事があった。その中で、新たな開校年度が明らかにされてなかった。延期、延期の後に今後どのようにやってゆくのか、心配である。子ども、保護者、先生方が振り回されている。

理由の中で、事業費が非常に高騰しているという話だが、今の世の中、事業費が非常に高騰しているのは事実かと思うが、大学南側、北側エリアでの実施が困難だと、先ほど説明があった。

3点質問する。困難だと言った理由の中に、建設費が高騰しただけが理由なのか。大学内に設置する可能性が無くなった訳ではない、と言われた。候補地の選定はこれからどのように進んでいくのか。建設費高騰で財源が無いと言うが、財源を確保する努力、例えば基金、積立金、事業の優先順位をつけるとか、無駄をなくしていくことも必要ではなかったかと思う。この7、8年でどのくらいの予算をつぎ込んでいただけたのか、来年度予算にいくらついているのか。

A. (教育部長) 今回、大学の敷地内ということで、運動公園を含むところで検討してきました。実際に建設費の高騰ということがあり、南側エリアについては造成工事が伴います。その造成費が当初予定していた額よりかなり大きくなることで、事業費の他に断念した理由があるかとの質問だが、造成できなければ建設は難しいので南側エリアについては事業費の面でできないと考えている。北側エリアについては、大学側が日常的に使用しており今後協議が必要と考えているが、このエリアも含め町内の可能な場所を探っていくことになる。

(総務部長) 財源確保の努力として、教育施設整備基金を積み立ててはいるものの、想定した予想以上に事業費がかかる。単に物価の高騰だけでなく、今年度行った基本計画調査を実施し設計を専門業者にやらせてもらって初めて具体的な建設費が出たので、その金額を見る限り今の町の財政力ではやっていけないので断念した。当然のこと国へ出向き補助金がいくらもらえるか調査もしている。借入金のこと調査した。差し引きした部分で最終的に建設費が高くても、補助金を沢山いただければ町の負担が減るわけなので、建設できるかどうかの判断ができるのだが、以前から年間1億7千万ぐらいの返済であればやっていると話ししてきたが、それだけで収まらないほど事業費がかかることで、今回、断念をした。

これまでどの位の予算を使ってきたか、ですが具体的な調査は今年度の2千万弱の基本設計の調査をやる。当初予算では、2億円近い予算を認めてもらったが、基本設計、実施設計で詳しくやっていくものだったが、そこまでお金を使って今回のようなできないとの答

えが出てきたのに無駄なお金だったという前に、必要最小限の調査にとどめ、現段階での調査結果を出した。令和7年度については、まだ事業をやめたわけではないが、予算化はしていない。今から大学とのいろいろな協議を進めていく中で、いろいろ検討した中で、予算の確保を議会にお願いしていく。

Q. 小中一貫校の通学方法検討について、野間小学校は、スクールバス。野間中学校は、自転車で検討されているが、野間は結構広くて、野間から日福付近まで行くには起伏があり大変だと思う。自分の子どもが一貫校に通うときにはちょうど中3で、1年だけ通うために自転車を購入しなくてはいけなくなる。通学方法の検討について伺いたい。

A. (教育部長) 本日の説明では、単純に机上で線引きしてお話ししたものです。以前、河和南部小学校が河和小学校へ統合した際、エリアで区切ったが、保護者の意見によりスクールバスを運行した経緯もあるので、今後具体的な話になれば、保護者の意見を聞きながら進めていきたい。

Q. 日本福祉大学内かどうかは決まっていないが、美浜町の中で一つだけ小中一貫校を造ることで、もう決まっているのか。これまでの話の延長線状では、このままの考え方では、どうやってもできないと思う。

子どもの人口が、これからだんだん減っていく。何年に何人に減っていくことを踏まえて。今この施設でもできるじゃない、という時が来るのでは。

河和中学校だけで東側を、西側も野間中学校で、奥田小、奥田保育所を集約して違う一貫校ができるのか、もう少し抜本的に予算が少なくて済むやり方で、何年に何ができるという考え方で進められないか。

A. (教育部長) 小中一貫校を整備する理由は、人口減少、施設の老朽化の中で、今後、益々の児童数の減少が想定される中、より良い教育環境を整えるには小中一貫校が良いという方針で現在計画を進めている。今後、言われたことも含め、総合的に判断して、検討していくところなので、しばらくお時間をいただきたい。

(町長) おっしゃられるとおり、お金の関係で非常に厳しいのではないかと、ということはお分かります。東西にしたほうがお金的にも良いということもお分かります。ただ最初に申し上げた通り、非常に子どもの数が減ってきていることと、校舎が老朽化してきていることで、すでに50年経過した校舎を今後何年使えるのかというときに、東西で1校ずつにするにしてもそれは造っていかねばならないと、2つ造ることになると非常にきびしい。

大規模改修等して、無理やり延命していくこともあると思う。これは今後検討していく中でどうしても事業費が難しい中では選択肢の一つになっていくかもしれない。子どもの数が減少している現状の中で、東西の一つずつにした学校のほうが、若い子育て世代に対して、魅力ある教育環境に映るのか、と訴え続けている。

美浜町には、日本福祉大学及び付属高校があり、そこと連携した教育、スポーツをするこ

とにより、美浜に行くとは違う教育、連携したスポーツ、文化活動をしていることが魅力になっていく、それが武器になっていくことを考えている。初めに申し上げた、魅力ある、特色ある学校を創り、外から人を呼び込む、外に出ていく若い世代の流出を防止する、そういったことが望ましいと思っている。最終的に小中一貫校を整備することには変わりはない。今、現状においては、やれる方法、大学と連携して協力を進めていきたい。

Q. 予算の問題だけでなく、通学の問題もあるが、そこも答えてほしい。

A. (町長) 通学の問題は認識しており、県内4事業者より協力の意向を得ることができ、スクールバスの実施可能が確認できたので、引き続き検討を進めていく。

Q. 奥田地区に小中一貫校ができると、東側に人が住まなくなり、ますます人口が減っていく。従来通りの学区で学校を存続させることを望む。

A. (町長) 子どもの学び舎の充実を目指す。若い子育て世代には小中一貫校へ魅力を感じていただけていると思っている。大学と連携した教育ということが外に向け魅力を発信していける。引き続き進めていく。

Q. 大学連携プール活用事業で説明があったが、河和小学校は、大学の施設を利用することはないのか。プール指導は、学校の先生が行うのか、大学の講師、指導員が行うのか。時間的に、学校のプール使用だと、授業時間でいけるが、バスで移動するとなると時間割はどのようなになるのか。

A. (学校教育課長) 大学には屋内温水プールがあり、今年度西部(野間、奥田、上野間)の小学校が大学のプールを使用して授業を行っている。年間10時間の授業があり、町所有のマイクロバス、河和小学校で使用しているスクールバスを使用している。1日で1年生から6年生の児童が行き、1年、2年でワンセット、3年、4年でワンセット、5年6年でワンセットと2学年がワンセットで3往復を一つの学校で行き来をしている。プールの授業は、移動と着替えのロスの時間があるので、2時間でワンセットとなる。年間10時間ですので5日間を使って現在授業を行っている。来年度は、布土を加えた4つの小学校の授業を温水プールで行っていきたいと考えている。

指導は、これまで通り学校の授業であるので担任の先生が行う。安全確保のため、担任の先生以外にも複数の先生が見守り、特別支援学級もあるので、学年に応じた特別支援の先生も行く。大学には、教育心理学部の教職を目指す学生、スポーツ科学部で教員、スポーツインストラクターを目指す学生がおり、彼らが児童と直接触れ合う機会でもありその協力もあり、また小中学校の先生方と大学の先生方が連携を取った他にはない授業展開を現在実施している。河和小学校は現在、これまで通り学校のプールを利用している。児童数が多く、町所有のマイクロバスの利用では移動ができないので、現在は規模に応じた学校が、大学プールを利用して授業を行っている。

Q. 子育て世代の意見をいろんな場所で、もっともっと吸い上げてほしい。どうしたいか、どうありたいか、どうしていききたいか、をもっともっとアピールしてほしい。一番進めてほしいものは日本福祉大学との連携、今あるものをどう有効利用し、これからの新しい子育て世代を呼び込むかをもっともっと皆さんには真剣に考えていただきたい。

小中一貫校はやっていただけますよね。

A、(町長) 進めないといけない。

Q. 若い世代を集める努力をもっとしてほしい。検討するだけでなく行動に移してほしい。

A. (町長) 面白いまち、特色のある町を創っていかなければいけない。それは美浜町では、教育、スポーツ、その2つが美浜町の魅力になっていくと思う。陸上競技場があって、大学と高校と連携した小中一貫校があって、教育とスポーツに取り組んでいる。この2つを武器にして町外に発信していく。これにより若い方々に来ていただく。このことを進めていく。

Q. 学校再編についての1点目、プロセスと結果について伺う。町長当選以来、学校再編説明会、保護者向けのアンケートや学校づくりワークショップ基本構想の策定も含めいろいろ練られてきたと思うが、私も説明会に参加し話を聞いてきた。結果としては、この一年半、二年近くいろいろ検討したけれども、振り出しに戻るという結果だと思う。

このプロセスにおいて、私が見て思うには、子育て世代に対して十分に情報提供、意見の吸い上げができていたのか少し疑問に思えた。またそのプロセスにおいては住民・議会との議論、教育委員会との議論も十分だったのか疑問に思っていたところだった。すべて見ていたわけではないが、ただただ町民がいきなり報道で知らされて、若干置いてきぼりがあったのではないと思う。そしてプロセスの中では、今回案をいくつか示されて、その上で検討した結果、駄目でしたとのことだが、話を聞いた限りでは、3案のうち1, 2に近いところは今年の6月議会で示されたかと思う。そのうえで、そのあとに2年の延期、さらに今回さらに延期が決まった。これは周りの話を聞くかぎりでは、もともとタイムスケジュールに無理があるとか、経済的に厳しいとか、当初から出ていたのではないかと思う。そうした中で、リーダーシップをもって進めていくのは大事なことだと思うが、見ている限り、周りの意見は聞かず進めてきた結果、振り出しに戻る状況ではないかと思う。それに関して質問だが、今回の振り出しに戻るという結果とそれに関するプロセスと2年以上さらに後倒しで延期となる事実とそれに対する責任について伺う。

2点目、2年後倒し、さらに延期で、それでも実現したいという中で、時間がかかるということはそれに関するお金もかかってくると思う。建設費の高騰だが、例えば年間3%上がってくれば元々予想をしていた60億、70億これに関しての3%だったら、2億、何年かかったら2億、4億、6億、10億とお金がかかっていく。実現したいとのことだが、ある程度の時間を区切っていかなければいけないと思う。いつまでに場所を選定し、開校を目指していくのか。

3点目、現実的な問題として、子どもの数が減少していく。再編の検討は、本質的な課題として子どもの数が減少していく中で子供の教育をどうしていくのか。それに関して、子どもの数が減っていく中、単に開校を延期するだけでなく、子どもの数が減少していくことに別問題で取り組む必要があるがどう対応していくのか。現実問題として、複式学級の問題もそうだが、野間中学校が一クラスになるとか現実問題として将来起こりうるか思う。これについて対応を伺う。

A. (町長) 町政報告会を開き、小中学校、保育所へ出向き説明をしてきた。美浜町が置かれている現状子どもの数が減ってきている、施設の老朽化など美浜町が置かれている現状を多くの町民の理解を得たと思うし、ワークショップを通じて今後大学とどのような連携ができるか検討できたので、この2年間で決して無駄な時間ではなく、やるべきことをやってきたと考えている。結果として、大学と覚書を結んだ場所が事業費高騰、事業費が膨らみ出来なかったことについては、おっしゃる通りです。ある程度専門家において検討、設計を行わなければわからないことでもあったので、決して無駄なことをしていたと考えていないし、必要なことを整理できたので、言われるような責任でなく、やるべきことをしっかりやってきた。結果として、大学と覚書を結んだ場所にできないことは、非常に残念で申し訳ないと思っている。

2点目、今後、大学の敷地内、隣接地外含めて場所を検討していく。当然、大学敷地内も含まれるので大学内での協議も必要になってくるため、町が期限を切れるものではないが、いつまでも伸ばすわけではないが、早急には伝えていく。

3点目、令和15年には、野間中学校が一クラスになるというお話があった。奥田、布土には子どもが4人しかいない。この子たちが入学するのが令和12年で、それまでにどうしていくのか。については、これまで議会答弁、説明会の中で、令和12年には東西1校にまとめることも・・・例えば、1年、2年と伸びた場合に、令和13年、14年、15年辺りに・・・一貫校ができると判明した場合、計画ができた場合に、令和12年に一度小学校を統合して、更に2・3年後にもう一度小中一貫校を統合することになると、子どもたちの心の負担が大きいことと、統合することは先生方の負担も大きいので、今は、小中一貫校の適地を探していくことを優先して進めていく。

Q. 時間と労力をかけてこの計画案を作り、なおかつコストも出して、結局、全部後に続いていく要素はあるのか。全くゼロに戻って土地から探す、なんて話ではないのではないのか。私は、3つの配置案を見させてもらった。これはよく考えられていると思うし、日本福祉大学のキャンパスの設計、高低差を利用した設計も素晴らしいと思うが、南側からの侵入路はかなり苦しいものであったと思う。私の試案だが、北側の知多奥田駅に近いところ、すごい大きなメリットだと思う、配置案3が一番良いと思う、ここにグラウンド整備費、駐車場整備費が必要と書かれているが。全部だめになったから、白紙からやるのだよ、ではないと思うのでその辺の説明をしてほしい。

A. (町長) まったく振り出しに戻るわけではない。場所のこと以外については、調整、確認ができています。

場所については、南側から侵入については、県道の拡幅が必要で、相当な事業費がかかってくる。駅から1 km歩くとすると防犯面で不安があることも事実である。北側は、大学と高校が現在、毎日使用しており、代替地が当然必要となってくる。代替地の運動公園の散歩エリア、配置図4は、元々人工芝ではないが多目的にサッカーもできるグラウンドを作る予定の場所で、サッカー場を作ることは可能な場所であるので、例えば町サイドでグレードアップして今と同じような人工芝のサッカー場を作ることができれば、このサッカー場の代替はできるであろうと思う。もう一つ、多目的フィールドもあり、検討が必要である。

今後、町と大学が担当レベルで詰めていく必要がある。当然のこと、大学側は当初からこの日本福祉大北側エリアは使っているので貸すことはできないといわれているが、町は基本計画を作る中で大学と覚書を結んだ南側エリア3案とも全く事業的にだめだという計画を二千万円かけて作るよりも、やはり大学との連携を非常に期待している方が多いので、少しでも可能性のある場所をとということで、今回北側エリアで探した。今後において、可能性を大学と模索していく、これには時間がかかることなので、大学に十分説明を尽くしていく必要がある、今はまだ代替案等を検討していく後に正式依頼する形である。運動公園エリアの中にサッカー場を整備するになれば、それもお金がかかることになり、現在の経済状況からして、新たに人工芝のサッカー場を作る、ナイター設備もつけることになるといくらかかるかも含めて検討したうえで大学側と協議、お願いをしていきたい。まったく振り出しに戻ることはない。今まで積み上げてきたものを生かしつつ、最終的に場所を決めていくことになる。

Q. 小学1年生の子どもを育てている。学校の問題は他の保護者と話して気になることである。春に入学して、校長先生や担任の先生、6年生のおかげで今やっと小学生に慣れた、と実感している。1年生が新2年になって新しい学校に入ることになったときに、やっと一年かけて学校に慣れてきた子たちが、もう一度最初から学校の設備を覚えなきゃいけない、お友だちも学区によっては倍以上に増えてしまう。

そんな中で2年生は算数でのちのすべての学習にかかわってくる掛け算の九九を習得しなければいけないらしい。きちんと新2年生の子が安心して新しい勉強ができるのかな、というのがまず心配です。新2年生に限らず、慣れてきた学校が一気に変わってしまうので、環境の変化について適応がしづらい子、するのが苦手な子、そんな子がたくさんいると思っている。なので、4月に学校の建物が間に合えばいいや、と作ってほしくなくて、もし叶うのであれば、2学期中には完成して、新しい学校に通い方を慣れてみようね、新しい学校の設備はこうだよ、4月からこれを使って楽しく学校に通ってね、という風に慣らしの時間が欲しいかな、と思います。そうすれば、4月に全学年がそろって新しい学校、今、候補

地のことは置いて、日福さんにできると思って話をしているが、4月、新年度開校にこだわらずに、できるだけ通う子供たちが安心して楽しく美浜町の思い出をたくさん作ってもらえるように、少しだけ慣らしの時間を作ってほしい、というのがある。

スクールバスも、今まで個々に通っていた子どもが乗ることになると、バスの乗り遅れをしたらどうしようとか、バスが事故にあったらどうしようとか不安になる子どもが多いと思うので、一気にやらなくていい、一学年ずつお友だちと交流して、新しい学校見学しようという回数を何度かやってほしい、と思っている。なので、早めに建物を作って子どもたちに新しい学校に早くなじんでもらえるような工夫を町にしてもらえないか。子供たちも、たくさんの子が一気に増えるので、できれば交流して早く仲良くさせてあげたい。

A. (教育長) 子どもたちが新しい環境に慣れるという保護者の不安はあるかと思う。開校時期が近くなれば、交流活動を実施して一つの学校に通うという配慮は当然必要になってくると思うし、それぞれの先生方も全員ではないが、小中一貫校に勤めることになるし、特別支援アシスタントや生活支援員も一緒に勤めることができるように配慮をしていくことは当然のことだろうと思っている。校舎を2学期中に完成して見学会を実施というのは、貴重なお意見です。

Q. 小中一貫校やる必要があるのか。

A. (町長) 私は常々言っていることは、美浜町はとても魅力的な町だと、自然環境に恵まれているし、医療環境も恵まれている、電車に乗れば1時間足らずで名古屋に行ける、地価も非常に安い、どうして皆住まずに町外に出て行ってしまおうのだろうか、若い子たちに選んでもらえてない、現実的に今、子どもを産み育てる若い方々が美浜を選ばずに外に出て行っている現状を考えたときに、若い世代がそこに選ぶ一つの大きな基準として教育環境があるのは一般的に言われていることである。

今ある古い学校が使えるではないか、それを使い続けていった結果が、今非常に子どもが減っている、若い世代に選ばれていない中で、魅力的な教育環境、教育施設を整えることにより若い人たちはそこに来る、これは現実的に言われていることである。教育環境の充実したところ、そこに行けばいい学校に行ける、教育をしている、大学と連携した教育ができる、大学・高校と連携したスポーツ・文化と一緒に中学校1年生から取り組める、こうした魅力をもって若い世代を呼び込んでいく、あるいは子どもを増やしていく、こうしたことをしなければ、先ほど言われたように、人口がどんどん減っていく一方です。

今このままの状態、今の古い学校を使い続けて、子どもの数が減っていく状況の中でやっていくことが、私は、違うだろう、と思っている。したがって魅力ある学校を造り、特色ある教育をして若い世代を呼び込む、次の美浜を担う子どもたちを育てていくことを訴えており、このことは保護者の方々には充分届いていると思っている。学校というのは、そこに通わせる保護者がどう捉えるかと思うので、言われた意見はごもっともと思うが、これから子育てをする父母の方々が果たしてどちらの教育を望んでいるか、当然、教育の中身は大

学と連携して、あるいは教育委員会が考えてやっていくことだが、やはり、魅力的なものを創っていく、そのことにより美浜の子どもたちを増やしていくことを考えている。

Q. 小中一貫校になるにあたり、何台ものバスが必要と伺った。愛知県内の事業会社 20 社に聞いて数社からしか前向きな回答がなかったと伺った。この先 2024 年問題で働く方がだんだん高齢化にあたり、貸切バスを確保していくのはかなり困難と思われる。それに伴い小さな子も、西海岸、東海岸とも保護者による送迎が必要な状況になる。どう考えているか。

2 点目、候補地は、日本福祉大学以外で、ほかのエリアで検討されていたのか伺いたい。

A. (部長) バスの候補として、4 社ほど前向きなご意見をいただいて、また今後そのような心配ごととも想定されるが、バスも貸切バスばかりでなく運転手の確保をしたりして、自前で購入したり、借りて、必要な台数を確保していく。

日福以外での検討ですが、今回の基本計画の中では日福の敷地内ということで検討してきた。今後、日福の敷地内では厳しいとのことなので、日福以外のところも含め、日福も含め町内の可能性のある場所を探っていくことになる。

(町長) 車の確保でなく、運転者の確保であるなら、確かに非常に厳しいことであると想定される。今、想定しているのは、マイクロバスで、大型バスではない。マイクロバスでいけば、私の年代の人間では、8t までの普通免許を持っており、おそらく 10 日程度自動車学校へ行き講習を受け資格を取得し運転できるようになるので、職員 OB や消防署職員 OB にも手を広げ運転手の確保をしていくことは当然考えている。

Q. 10 年以上前から名古屋から美浜町に移住してきて、すごく美浜は良いところだと実感していて、空が広いし、空気もきれいで、朝起きたら鳥のさえずりで気持ちがいいし、すごく美浜の魅力を感じているが、6 年前に子どもを産んで、その時から小中一貫校の話があって、すごくワクワクして待っていた。自分の子どもが小学校 2 年生、3 年生のころには一貫校になっているのだなと思い描きながら育ててきて、次、1 年生になるが、その中で計画が後倒し、後倒しとなっていくと、今の説明だと令和 15 年に開校予定でよいか、

A. (町長) 令和 15 年とか、何年とは申ししていない。中学校が一クラスになるという話が出たので、令和 15 年くらいに中学校が一クラスになるよ、という客観的事実としてあるということです。もともとこの小中一貫校は、前教育長が言い始めたのは、野間中学校が近い時期に一学級になってしまう。中学校として一学級は避けたい、ことからスタートしたものの。今は中学校より先に小学校の少子化が深刻になってきている。検討している課題の中に敷地の問題があり、どこで行うか決める必要があり、今でいうと大学と協議が必要となるので、早急に行いたいということです。

Q. 決まっていないということで、保護者としての気持ちになってしまうが、6 年待って、更に何年か待ってと、15 歳くらいになっていく。そうすると、どんどん私の関心が薄れてきてしまい、今 0 歳の、今年出産をした人たちは過去の私と同じように期待して待っている

るはずなので、美浜町が魅力ある町はすごくわかるが、今は野菜が直売所で安いので家計も助かるし、いろいろな魅力がある中で、町長が言われている魅力あふれる教育と、現状との矛盾を感じるので、保護者としては具体的に、いつ、どんな形で開校するのか純粋に疑問で、そこがいつ発表になるのか、もう少し具体的に私たちに届けてほしい。

A. (町長) できる限り早い時期に次の目標年次をお伝えしたい。魅力ある教育をしていくために箱物(学校)は確かに伸びてしまった。これは、大学との教育連携については学長とも話したができるところからやっっていこうということです。今日も教育長、部長とSALTの温水プールで子どもたちが元気に、とても楽しそうに泳いでいるので、「小学校と比べてどうか」と聞くと多くの子どもたちは「こちらのほうがいい」と言ってくれた。

同じように部活についてももっと進めていきたい。今地域移行ということで受け手がなく、なかなか全国にはないが、美浜町には日本福祉大学、高校があって、スポーツ科学部がある。そちらのほうにぜひとも一緒にやっていただきたいとこれからお願いしていきたい。土日だけでなく、平日も一緒にクラブできませんか、と。そうしたことをやっていきたい。

教育についても教育実習という形でお手伝いいただきたい。他にはない教育を、やれることからどんどんやっていく。そのことにより皆さんに、小中学校と高校、大学と連携する良さをより体験していただく、実感していただけると思うので、建設については伸びるが、連携についてはやれることからどんどんやっていくことで教育長とも話しているところです。

Q. 地域から学校がなくなることは、現状、とても大きなことだと思うが、皆さんの意見を聞いていると、希望、不安などいろんな意見があると思うが、そして町民が右往左往していることに対してどう考えているのか。私の職場は町内なので、「新聞とかで、小中一貫校のことでごたついているけど美浜は大丈夫か。」と聞かれることがある。現在の町長の実行力、行動力、統率力、得手不得手、能力有るなし含めて、客観的な自己評価は何点をつけるか。

A. (町長) 評価は自分でつけるものではないと思っている。厳しいご指摘をいただいたので及第点を取っていないだろうと思う。

町民が右往左往している。どう思っているかについては、申し訳ないと思っている。非常に期待をさせた、新聞報道等も出た、テレビにも出た、結果的にはできなかった、令和10年が12年になり、最終的にはそこでできません、ということについては正直も申し訳ないと思っている。ただ学校を造るということは今後50年、100年に渡りやっていくことなので、無理にそこでやって、後で、ということではなく、じっくり検討する必要があると思っている。ただ今それを言うなということもある。この厳しい日程の中で決めてきたことであるが、非常に申し訳ないと思っている。町外の方から、大丈夫かと聞かれる、それはごもっともだと思う。新聞報道だけを見れば、やると言ったものが延びる、そして困難、という形でそこで何年という形になる、やはり大丈夫かと聞かれることは、その通りだと思うが、結果的にやって良かった、あるいはこんな形で落ち着いたねという形に最終的

にもって行く、もっていかなければいけないと思っている、それができると思っている。この場で、どこで何年にとは申し上げられないが、私は必ずこれを実行していきたいと思っているので、そこは、よろしく願いしたい。

Q. 前回 3 つの候補のうち予算が足りないからとのことで大学の敷地内に建設と決まったと思います。結局 100 億かかってしまうのであれば、日福付近に建設する案はいかがなものかな、と思う。また、通学方法を後回しにするとのことだが、バスにしても電車にしてもお金がかかるので、国の補助金を頼って計画を立てていると思うが、通学は国家の財政が破綻しても必要な最重要な項目と思う。補助金なしで、一体いくらかかるのか、数字ではっきりさせたほうがいいと思う。

また、新しい学校になるとどれだけ通学時間が延びるのか、全生徒の時間を、現在の学区別に集計して、どれだけ生徒の時間を奪うのかを、一度、数字として見える形にしてほしいと思っている。私は、町外から美浜に引っ越ししてきたので、通学時間を重視して家を選んだ。今回全く理解できないこととして、なぜ単独で今後も一学年複数学級維持できる規模の河和小が、わざわざ奥田まで通させないといけないのか、理解に苦しむ。理由は、バスや電車を通わせるとなるとお金がかかるから、通学費という観点からすると、やはり大きな規模の学校に集約していったほうが合理的なのかな、と思っていた。

A. (町長) 今言われたことはきちんと数字で、いろいろな場面で担当より発表していきたい。スクールバスについては、国が交付税措置をすることで、現状としてはマイクロバスを運行する経費として全額くらいもらっている状況である。電車を通う場合も補助制度があることも文部科学省に確認してある。バスを買えば、維持管理費、新車購入費が必要となるが、河和小学校は今、確かに 2 クラス、3 クラスあってなぜ、とはおっしゃる通りだと思うが、すでに河和学区でも、1 学級なるというのが目に見えている。おそらく来年あたりに生まれてくる子どもの数が 1 学級になってしまう、というギリギリのところですよ。去年 38 人だったが、そのうち 6 人が南部学区の子どもですが、実際には河和学区だけでいうと 32 人で、1 学級なのですね。著しく減ってきている。決して、河和は決して他人事ではない。そんな状況の中で、子どもがこれだけ減ってきている中で、その中で一番数の多い河和に集めるのは合理的ではあるものの、果たしてそれが町外の方々にとって魅力的に映るのか、というところが、私がどうなのかなと思う。

同じ造るのであれば、大学・高校と連携した魅力ある方向とすることが、むしろ響くところがある、あるいは外から越境してでも入りたい人がいる可能性があるのではないかと、いうことを思っているが、今後、大学敷地内、外で検討していく中で、河和のエリアも検討の中に入ってくるわけで、その場合、学校を取り壊して校舎を造ると非常にお金がかかるわけで、そうした経費も含めながら、経費的にはこう、目指すべき教育はこうです、を含めて、皆様方に当然お示しをしていかなければいけないと思っている。

Q. 会議録を見ると、「実施が困難であれば、段階的な措置として東西の小学校をそれぞれ1校に統合していくことも選択肢の一つだ。」と明確に答えているが、このことに答えてください。

A. (町長) 先ほども申し上げたが、一つの選択肢であることに変わりはない。ただ、全く小中一貫校の建設が頓挫したとか、あるいは無いということになれば、選択肢が更に加わっていくことになるが、4人しかいない子どもたちが入学する年までに何とかしなければいけないのは変わっていない。子供たちが入るまでにあと5年あるわけで、それまでに検討していく中で、新しい候補地ができた場合に、令和12年に一度、東西に統合して、それから2、3年後に新たに一貫校に変更、統合することの、子どもたちの心の負担と、先生方の仕事上の負担を考慮すると、今、12年に統合しますとは、まだ言えない。と先ほど言った。